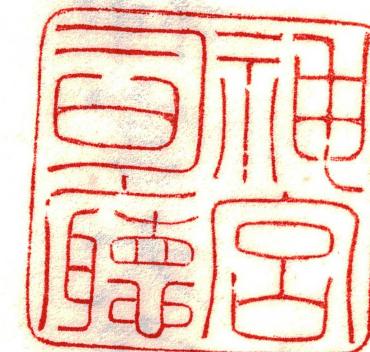


皇大神宮大麻奉祀式

山田一志
加藤講古堂
藤原星長平
副原本之記



教部省伺書寫

毎年全國一頒布致居

神宮大麻奉祀之式不立臣等尋出
左向也有之臣間令般奉祀式別紙之通未定
上末仕夫々相授皮臣差支也當立哉如何居
至急臣指令可致下也

明治六年二月十四日

神宮少宮司浦田長民印

宗戸教部大輔殿
黒田教部少輔殿

書面定式聞届上木差許度事
但成刻之上三部上納可致事

明治六年十二月廿七日



皇大神宮大麻奉祀喻解

祭よそよ
皇大神宮大麻奉祀
凡世の入皆事々觸きて私情の動りざるを得ぞ
而して他人未ざ之を知らざるも天神へ既に照
覽ましく此を咎めたまふ故小常小念頭小
發る所を慎み速々罪惡を除却せざる可うらば
而して其罪を拂除するの神具之を大麻と云ふ
毎歲神宮より領賦を所則ち此を常々大

麻向ひ敬拜せらるて祀へ念頭の罪穢消尽し
 今世よへ諸の災厄を除き福壽延長死後ハ永遠
 天上の娛樂を受く故よ毎朝毎夕拜礼を遂げ且
 大祭祝日よハ左の式よ由て典祀をへ
 皇大神宮大麻奉祀次第

毎年年末よ到り新年小奉祀モべき大麻と拜戴
 セバ本年奉祀セシ所の大麻と氏神の社頭モ納

但し一年毎年神棚へ奉祭祀く等ハ戸主のこゝろよ任せ
 盛新よ拜戴したる大麻と神棚モ奉安シ戸主禮
 服を着ト家族を率み神棚の前モすシみ各着座
 先戸主神饌を供セ
 次戸主毎日神拜の詞録モ奉讀シ訖モ一同拜
 禮也

次神饌と徹さへ直會かからひと分典ぶんよにて一家無異いつなぶるの祝辭あやじ

を演おもてべ終おのづか日歡娛かんゆを極きわむべ

本日夕刻ゆふとき至いたら燈火とうひを獻けんせべ

○
一月一日以下いげ祭日さいじ錄もと小は右さきの式しきを准そなへて之れ
と奉祀ほうしを盛さかんく

○
毎朝まいちうハ先漱鹽さぬけいおんて各神棚かくじんたうの前まへに座すわく毎朝まいちう神辨じんべん

の詞錄ことあらわしを稱よみへ拍手はくしゅ一拜いつぱいせべ

神饌品目じんぜんひんもく
洗米せんまい酒さけ水みず各おなご一盛いちめい

此餘魚鳥海草野菜果物等あらうそとくわいのうとうやさいかのぶつを供ふそろは適宜そきする

○
○

一月一日

四方辨日

一月三日

元始祭日

一月三十日

孝明天皇遙拜日

二月

卷之三

二

卷之三

大綱目

九月十七日

神嘗祭日

十一月三日

天長節日

十一月廿三日

新嘗祭

十二月三十一日

大
移
田

此餘誕生創業

奏功等凡

の日は必ず先

式を行ふ

其事の悉くは

儀略式年中神辨略記等又就

て見るへ

祭日神拜詞

掛けまくも 万久恐 支天照 皇大神宮 乃 大麻乎齋
支 祭礼 留此神床 尔慎 美敬 比仕奉 且畏美
畏 美白 久過知犯 留許々多久 乃罪乎水
乃 淡乃早瀬 乃浪尔消失 留夏 乃如久淡
雪 乃春日 乃影尔消失 留夏 乃如久消失

補官言廟

比 賜 比 皇 大 御 神 乃 貴 乃 御 孫 止 大 座 須
天 皇 尊 乃 所 知 食 須 政 変 波 天 地 乃 共 平
爾 顯 見 蒼 生 乃 生 留 日 乃 職 業 波 弥 益 尔
弥 廣 尔 退 留 礼 後 乃 快 樂 波 永 久 尔 無 窮 久
守 利 賜 比 授 氣 賜 布 大 御 德 乎 尊 備 喜 備
供 進 留 御 酒 御 供 乎 平 久 安 久 所 聞 食 止

畏 美 畏 美 毛 白 須

每日神拜詞